

単元名 たしざん(2)

配当時間 9時間

単元の目標 (1) 繰り上がりのある計算の仕方について理解し、(1位数) + (1位数) の繰り上がりのある計算ができる。
 (2) 10の補数に着目して、加数を分解してたす考え方ができる。
 (3) 繰り上がりのある計算に興味をもち、「10の補数」という考えのよさに気づき、進んで計算しようとする。

標準的な展開例

01040207_001

【準備等】数図ブロック、数図ブロック盤、たし算カード、色鉛筆

学 習 活 動	留 意 事 項 など
<p>1 (1位数) + (1位数) で繰り上がりのある計算の仕方を知る。[p. 94・p95]</p> <p>○ 繰り上がりのあるたし算の計算の仕方を、数図ブロックの操作を通して考える。 ○ 単元の学習課題をつかむ。 ★ たしざんでこたえが10より大きくなるけいさんについてかんがえていこう。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>2 (1位数) + (1位数) で繰り上がりのある計算の仕方を作り上げる。[p. 96・p. 97]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ こたえが10より大きくなるたしざんのしかたをせつめいしよう。 ○ 7 + 4 の計算の仕方を数図ブロックで確認する。 ○ 7 + 4 の計算の仕方を言葉で説明する。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>3 被加数が6以上の繰り上がりのある加法の計算をする。[p. 98]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ こたえが10より大きくなるたしざんのしかたをかんがえよう。 ○ 被加数が9の場合について、繰り上がりのあるたし算の仕方を確認する。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>4 被加数が5以下の繰り上がりのある加法の計算をする。[p. 99]</p> <p>○ 本時の学習課題をつかむ。 ★ たされるかずが5より小さいたしざんのしかたをかんがえよう。 ○ 被加数が5以下の場合の計算の仕方を考える。 ○ 「練習問題」に取り組む。</p> <p>5～6 たし算カードを使って、計算練習をする。[p. 100]</p>	<p>・ 被加数の10の補数を見付ける→加数を2つの数に分解する→3つの数を加えるという手順を、数図ブロックの操作を通して実感させる</p> <p>・ 数図ブロックを用いて、加数がどのように分解されるかを視覚的に捉えさせる。 ・ 被加数に10の補数を加えることで、「10といくつ」になることに気付かせるため、被加数の数図ブロックを数図ブロック盤に並べる。 ・ 10の補数を意識するよう声かけをする。 【評】 10の補数を意識して、加数を分解して10を作ることを考える活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 数図ブロックの操作を通して、その操作を振り返りながら計算方法を言葉でまとめさせていく。 ・ 加数を被加数の10の補数と残りに分けるとよいことに気付かせる。</p> <p>・ 計算の仕方を数図ブロックの操作を通して理解させる。 ・ 計算の仕方を声に出して言わせることで、定着を図る。 ・ 計算の仕方を小さな声に出しながら計算練習に取り組ませてもよい。 【評】 加数を分解して、10の補数を利用した計算をする活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 数図ブロックの操作を通して、その操作を振り返りながら計算方法を言葉でまとめることにより、方法の定着を図る。 ・ 加数を被加数の10の補数と残りに分けるとよいことに気付かせる。</p> <p>・ 9の補数が1であることから、1の位は加数より1小さい数になることを確認する。 ・ 被加数が9の場合から順に、8の場合、7の場合、6の場合の計算練習に取り組ませることで、法則性に気付かせる。 【評】 繰り上がりのある加法の計算をする活動を通して、「思考・判断・表現」を評価する</p> <p>・ 被加数が小さくなるにつれて、その補数が見付けにくくなるので、加数の10の補数を見付けることに重点をおいて指導する。</p> <p>・ 理解が遅れがちな児童には、加数分解を基本としていつも同じ手順でやればできるという自信をもたせるようにするが、理解の進んだ児童には、被加数分解で計算してもよいことを知らせる。 ・ 加数が6～9で被加数が5以下の場合は、被加数分解をする方が計算しやすいことを知らせる。 【評】 加法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。 ・ 同じ計算を繰り返す学習なので、ゲームの種類を変えて、楽しく学習できるように雰囲気作りをする。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○たし算カードを使って、たし算カードの答えを言う。 ○たし算カードの中から、答えが11になるカードを見付ける。 ○本時の学習課題をつかむ。 ★たしさんカードでゲームをしよう。 ○教科書巻末の「かあどげえむ」をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・こたえはいくつ ・おおきさくらべ ・かあどとり ・なかまあつめ <p>7～8 たし算カードを使って、計算練習をする。[p. 101]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習課題をつかむ。 ★たしさんカードでくりあがりのあるたしさんのれんしゅうをしよう。 ○同じ答えのたし算カードを並べて気付いたことを話そう。 ○「あ」から「き」に入る式を考える。 ○たし算カードを縦や横に並べて、計算練習をする。 <p>9 単元を振り返り、確認問題に取り組む。[p. 102・p. 103]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「たしかめよう」に取り組む。 ○学習の振り返りを話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・答えが11になるカードの共通点を見付けるよう促すのもよい。 ・4つのゲームがあるので、友達と競争したりゲームを取り入れた練習を組み合わせで行ったりすることで、児童の関心が持続するように工夫する。 <p>【評】カードを使って、加法の練習をする活動を通して、「主体的に学習に取り組む態度」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理解が不十分な児童には、数図ブロックを用いて個別指導をする。 ・誤りの多い「$7+6$」や「$4+7$」などは、多く取り上げて何度も言わせるようにし、つまずきの実態に応じて練習していくようにする。 ・被加数の昇順など、並べ方を示すとよい。縦で比べて気付いたことや、横で比べて気付いたことを話し合わせる。 ・ペアで、入る式を確認し合ってもよい。 <p>【評】加法の計算問題を解く活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別指導を通して、単元の学習内容の定着を図る。 ・自己評価をし、不十分なところは教科書で振り返らせる。 <p>【評】問題に取り組む活動を通して、「知識・技能」を評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・繰り上がりのある加法について分かったことや楽しかったことなどを話し合わせる。
---	---

【 備 考 】
本単元は、繰り上がりのある1位数同士の加法の計算を学習する。この単元は、計算の原理を理解させることと、計算に習熟させることを重点に構想することが大切である。計算の原理を理解する学習では、数図ブロックなどの操作を通して理解できるようにする。また、計算に習熟する学習では、ゲームの要素を取り入れるなどして楽しく継続できるように工夫する。
展開例は9時間完了を基本としているが、単元末に補充課題や発展課題に取り組ませ、10時間完了としてもよい。